

# 沖縄県名護市旭川の手踊りエイサー

小林 公 江  
(教育学科教授)

小林 幸 男  
(京都教育大学名誉教授)

## はじめに

沖縄の盆を彩る芸能のエイサーには、手踊り中心のエイサー（手踊りエイサー）と締太鼓やパーランクーが中心のエイサー（太鼓エイサー）がある。現在は太鼓エイサーが圧倒的に多いが、沖縄の北部、本部半島一帯では古くから手踊りエイサーを伝承しており、今もそれを伝える集落は多い。この手踊りエイサーは三線伴奏で、男女あるいは男性が円陣になって、三線の調絃毎に各十数曲をあたかも一曲のように連続して歌い踊るもので、非常に速いテンポで、三線弾きと踊り手衆の掛け合いに特徴がある。

しかし、近年この地域でも、青年達が伝統的な手踊りエイサーを太鼓エイサーに変えていく集落があちこちにみられるようになる一方で、青年自体の減少でエイサーの伝承が途絶えることも希ではなくなってきた。本稿ではその両方を経験してきた名護市旭川のエイサーを取り上げ、2001年～2002年の調査を中心に、2013年の聞き取りも参考にしつつ伝承について報告し、手踊りエイサーの楽譜資料・歌詞資料作成を通して、特徴などを明らかにするものである。

## 1. 旭川エイサーの概観

名護市<sup>やぶ</sup>屋部地区の旭川は、本部<sup>もとぶ</sup>半島中央部の山地に連なる山がちな集落である。1943（昭和18）年、名護町（現名護市）屋部<sup>やまの</sup>と山入端<sup>は</sup>から分区独立して新設された。集落名「旭川」は、当時の青年団の主張「朝日のごとく、流れる川のごとく」〔名護市史編さん委員会編 1988：356〕によるもので、伝統的な地名ではない。2012（平成24）年度末の集落への登録戸数は87、

人口245名で、かつては甘蔗、現在はシークワサーなどの果樹栽培を主に営んでいる。

### (1) 旭川エイサーについて

旭川ではエイサーは「エンサー」とも呼ばれ、分区以前から、本字とは別に5つの小字でつくる「5ハル青年クラブ」が行っていた〔名護市教育委員会文化課市史編さん係（以下、名護市）2006：415〕。比嘉武正氏（1930生）の祖父の代にはあったというから、かなり古くから踊っていたようだ。仲間幸信氏（1924生）によれば、戦前は2組に分かれ、旧暦7月15日のお送り<sup>うくい</sup>前の午後8時頃からエイサーを開始し、一晚中各家を廻っていた。遅い時刻でも各家庭には伝令が太鼓でエイサー衆の到来を知らせたという。

旭川では昔からエイサーは男女で踊り、衣裳は決まっていたのはなかった。これは男性だけが紺地の着物を着て行っていた屋部地区屋部や同宇<sup>も</sup>茂佐とは大きく異なる。二人で酒甕<sup>さ</sup>をかついで廻り、その酒を反省会で飲んだり、換金したりしたこともあったという。さらに、家庭廻りでは、時間を見計らって適宜曲を抜く一方で、特に富裕な家ではエイサー後に、エイサー衆の中の踊り上手が特別に<sup>ぞう</sup>雑踊の《加那<sup>カナー</sup>ヨ<sup>ー</sup>》や二才<sup>にーせー</sup>踊《上り口説<sup>ぬふい</sup>くどち》などを踊ってみせたそう。

戦後十数年地謡を勤めた比嘉武正氏によれば、戦後は1947（昭和22）年に復活し、特に戦地から青年が戻り軍用地に就労する前の2年間は85人が3組で家庭廻りをした。地謡は各班2人で、三線には洪張り、落下傘、馬皮などが使われた。踊りの景気づけの太鼓はなかった。翌朝に廻り

終わると、夕方からは屋部小学校同窓会（校庭）や名護市街にも出向いて例年踊った。

家庭廻りは「昭和35年頃まで」〔名護市 2006：416〕で、その後3、4年はアジマー（十字路など）でテープを流して踊るようになり、この頃から地謡がいなくなった〔名護市 2006：416〕という。こうして旭川では1965年～70年頃から手踊りエイサーは廃れたようだ。

その後、1988（昭和63）年、石川市（現うるま市石川）から学んだ太鼓エイサーを導入した〔名護市 2006：416〕が、これも青年が減少したため、旭川としての活動はなくなった。その後この太鼓エイサーは屋部に本拠地を移し、今では屋部の青年達も含めた「屋部若獅子会」として広く活動している。

一方、手踊りエイサーは、1996（平成8）年頃から旭川高齢者若者センター（＝公民館）広場で始まった「盆踊り」の中で、「子どもを入れず昔からのエイサー節で踊る」〔名護市 2006：416〕形で復活した。この催しでは、他に子どもエイサーや本土風な盆踊りも行われ、「屋部若獅子会」も演舞で参加するのが恒例となった。現在伝わる歌詞集はこの復活時期に比嘉武正氏書き留めたものだが、その時点で既に失われていた曲もあった（次節参照）という。

しかし、この復活エイサーも二年ほどで再び絶えている。旭川では分区時から、主に屋部の人々の指導で村踊りを始めたが、1960（昭和35）年で途絶えた。敬老会も踊りや歌の機会だが、伝統芸能という点では、手踊りエイサーが唯一のものであったので、その途絶が惜しまれる。

## (2) エイサー曲について

地元作成の歌詞集に基づき、適宜漢字・カナを書き直し、通し番号をつけて旭川エイサーをまとめると以下ようになる。（ ）は沖縄での一般的な曲名である。

### 本調子

- スリスリ目出度イ（目出度イ節）
- エイサー節（念仏）
- 久高万寿主
- 手下ルシハドンドン（作たる稲）

- テンヨーテンヨー（テンヨー）
  - 稲摺り摺り節（稲摺り節）
  - 一路平洋（一路平安）
  - ジントーヨー節
  - 我達心おひらーてい知り（苺小と同系曲）
  - サーヒヤルガヘイ（今帰仁ぬ城）
  - スーリ東
- 二揚（一二揚）
- 巡りバ巡りバ（だんく舞）
  - カマヤシナー
  - 海ぬちん法螺
  - A. 如何ガ仲門兄
  - B. 茶売小
  - デンスナー
  - 谷茶前

### 本調子

- カイシャヌヨー（新湊節）
- ピーラルラー（二合小／サブエン）
- 唐船どーい

この他に、かつては《海やからー》《スヌマン歳（伊舎堂前）》《越来》《イマ三世（苺小）》…以上本調子、《東前門》《加那ヨー》<sup>1)</sup>…以上一二揚、も踊ったという。

これら旭川エイサーの曲目は、本部半島一帯のエイサーとほぼ同じで、戦後の導入曲《デンスナー》も含め特に近隣の屋部や宇茂佐とはかなり類似する。しかし他の戦後導入曲《新湊節》《ジントーヨー節》はエイサーとしては旭川独特である。この他、類歌が屋部にある《我達心おひらーてい知り》に独自の囃し詞があることや、寸劇《茶売小》の歌詞を取り入れた《仲門兄》と同旋律）ことなども特徴といえよう。

また《一路平洋》や《久高万寿主》《作たる稲》、《カマヤシナー》や《仲門兄》などでは近隣集落より歌い手と踊り手衆が頻繁に歌を掛け合い、《唐船どーい》にも他集落にはみられない曲中の踊り手衆の囃し詞があるなど、掛け合いが豊かであることも特徴の一つである。

全体の構成「本調子→一二揚→本調子」は屋部地区勝山・山入端・屋部や本部町・今帰仁村の「本調子→一二揚」とは異なるが、名護地区大兼久・東江、屋部地区宇茂佐とは共通する。また、終盤は隣集落である中山の、退席の隊形造りが《ピーラルラー》で退席が《唐船どーい》〔名護市 2006：500〕と類似するが、構成

は全体として名護地区側から影響を受けている  
 といってよい。

歌詞や旋律、踊りなどをもう少し詳しくみて  
 みよう。空手風な踊りとゆったりしたテンポ感  
 の《久高万寿主》や《作たる稲》は名護側と共  
 通する。一方、名護地区にほとんどみないが本  
 部町で一般的な曲である《一路平洋》や《海や  
 からー》は他の屋部地区同様に伝承が確認で  
 ける。また、《今帰仁ぬ城》は歌詞の間に囃し詞  
 「ヨンサー」が入る今帰仁村各地や本部町伊豆  
 味・屋部地区安和と同タイプの曲を伝承してい  
 るが、これは本部町や名護地区、屋部とは異な  
 るものである。

踊りには、扇(スーリ東)と四ツ竹(カイシャ  
 ヌヨー)の踊りもみられる。扇や四ツ竹は戦後  
 に用いるようになったが、名護地区側は持ち物  
 の踊りが多く、本部町は持ち物がないことから、  
 名護地区側から影響を受けたと考えられる。

このように旭川エイサーには名護地区との類  
 似、屋部地区との共通性ととも、それとは異  
 なる本部町や今帰仁村側からの影響もみるこ  
 とができる。これは名護市の中では本部町や今  
 帰仁村に近い旭川集落の位置によるものであ  
 ろう。

## 2. 収集資料

- 今回の資料化には下記の録画、録音を用いた。  
 ・録画…何れもエイサーの実況。小林幸男担当。  
 1. 2001年9月2日 旭川高齢者若者センター庭  
 演唱：仲間幸信(1924生) 山城義夫(1941生)  
 胡屋和秀(1943生) 胡屋勉  
 2. 2002年8月22日 旭川高齢者若者センター庭  
 録画機材：Sony DCR-VX1000  
 ・録音…小林公江担当(5.のみ小林幸男)。  
 1. 2001年8月31日 旭川高齢者若者センター  
 仲間幸信氏からの聴き取り  
 2. 同日 地元の保存用、実況用テープのコピー  
 3. 2001年9月2日／4. 2002年8月22日  
 旭川高齢者若者センター庭でのエイサー実況  
 5. 2013年11月19日 比嘉武正宅(名護市)  
 比嘉武正氏(1930生)からの聴き取り  
 録音機材：Sony TCD-D8(DAT)・ECM-959A  
 TASCAM DR-07…5.のみ

## 4. 旭川エイサーの楽譜

楽譜は、前述の収集資料の2を中心に、2001  
 年・2002年の実況を参考にして作成した。

### 凡例

- ・1 オクターヴ(男声)と半音高く記している。
- ・歌詞欄の〈 〉は、踊り手の歌唱部分である。
- ・上下になった音符は該当番数を付して歌い方  
 を示し、重ねた音符はさまざまな歌い方を示す。
- ・記載したテンポは実況でも用いる保存用テー  
 プのものである。テープを用いない実況はそれ  
 より幾らかテンポが速くなっている。かつての  
 家庭廻りでは更に意図的に早く弾いたという。
- ・採譜は小林公江が行い、小林幸男が校閲した。

### 謝辞

エイサーや行事についてお教え下さいました  
 2001-02年当時の区長仲間幸信氏(故人)、比  
 嘉武正氏はじめ、快く行事取材をさせて下さ  
 いました旭川の皆様に心より御礼申し上げます。

### 註

- 1) 《加那ヨ》がエイサー曲か否かは見解によ  
 り異なる。おそらく戦前にはレパートリーで  
 あり、戦後は行われなくなったのであろう。

### 引用・参考文献

- 小林公江・小林幸男  
 2010 『[楽譜・歌詞資料] 沖縄県名護市の大兼久  
 エイサー—大東・大中・大西・大南・大北・  
 山田—』私家版  
 2011 『[楽譜・歌詞資料] 沖縄県宇茂佐の手踊り  
 エイサー』私家版  
 2013 「沖縄県本部町の手踊りエイサー—伝承の  
 概要と音楽的特徴—」『研究紀要』第二六号  
 京都女子大学宗教・文化研究所  
 2010-2013 「沖縄県名護市屋部の手踊りエイサー  
 (1)~(4)」『発達教育学部紀要』京都女子大学  
 名護市教育委員会文化課市史編さん係編  
 2006 『名護市史研究資料第88集 芸能調査資料  
 2 屋部地区の芸能』  
 名護市教育委員会文化課市史編さん係  
 名護市史編さん委員会編  
 1988 『名護市史 本編・11 わがまち・わがむら』  
 名護市役所  
 旭川区作成の歌詞資料

### 3. 旭川エイサーの歌詞

#### 凡例

- ・歌詞本体は、ゴシック体の漢字平仮名交じり表記を基本とした。  
 囃し詞は漢字片仮名交じり表記を基本としたが、歌詞本体の一部を含む場合にはその部分のみを漢字平仮名交じりで表記した。掛声は片仮名表記した。
- ・音声上殆ど区別のない音(「り」と「でい」等)は、対応する琉球方言や日本語に従って書き分けた。
- ・〈 〉 …… 踊り手の歌唱部分を示す。 { } …… 歌詞の音数を整えるための産み字を示す。  
 ( ) …… 歌詞や囃し詞のヴァリエーション(多くは歌詞集記載のもの)を示した。
- ・明朝体で共通語訳を付けた。訳は現地の説明を汲んだ上で小林幸男が行い、小林公江がそれを校閲した。
- ・歌詞の注釈を、……で適宜記した。

#### 本調子

##### 01. 《スリスリ目出度イ(目出度イ節)》

スリスリ目出度イ(目出度イ節) スリスリ目出度イ(目出度イ節)  
 親雲上加那志ぬ 主る前や 命ぬ親加那志 〈此ぬ世からあぬ世 サンサ 御願えさびら〉  
 〈目出度イ目出度イ スリスリ目出度イ 嘉例吉目出度イ〉  
 宝 井ぬなかに 黄金玉出てい 〈此ぬ世からあぬ世 サンサ 頂に載みら〉  
 〈目出度イ目出度イ スリスリ目出度イ 嘉例吉目出度イ〉

親雲上(位階名)様の御当主は、命の親御様。〈この世からあの世、サンサ お願いをしましょう。〉

〈目出度イ、目出度イ、ソレソレ目出度イ。嘉例吉(=縁起の良いこと)目出度イ〉

宝の井泉に黄金の玉が出て、〈この世からあの世、サンサ 頭上に載せよう。〉〈以下同〉

##### 02. 《エイサー節(念仏)》

エイサーエイサー 〈サーエイサー ヒヤルガエイサー スーリサーサー チェチェ〉  
 七月七 七日の十日に 〈エイサーエイサー サーエイサー ヒヤルガエイサー スーリサーサー チェチェ〉  
 五ちぬ歳にや 母 親戻てい 〈エイサーエイサー サーエイサー ヒヤルガエイサー スーリサーサー チェチェ〉

七月七 七日の十日、〈エイサーエイサー、サーエイサー、ヒヤルガエイサー、ソーレサーサー〉

五つの歳に母親が他界し、〈以下同〉(七つの歳に思い出し〜) ……「継親念仏」の冒頭詞

##### 03. 《久高万寿主》

スリサーサー エイスリサーサー 〈スリ ハイ(スリ スリ)〉  
 久高万寿主や 清らゆーペー かめていていんどー 〈ヨー 玉黄金〉  
 今宵ヌ 話ヌ面白サ 〈スリサーサー エイスリサーサー スリ ハイ〉  
 衣着しれー 大綾衣着ち さばくませー 長刀さばくでい 〈ヨー 存分ぬ腐ら〉  
 今宵ヌ 話ヌ面白サ 〈スリサーサー エイスリサーサー スリ ハイ〉

久高万寿主は、綺麗な 姿を探し求めて(求めて)行くよ、〈ヨー大切な人(よ)〉

今宵ノ話ガ面白イ。〈ソレサーサー、エイソレサーサー、ソレ、ハイ〉

着物を着せりや大柄の着物を着て、草履を履かせりや長刀のような草履を履いて、〈ヨー能なし(よ)〉

##### 04. 《手下ルシハドンドン(作たる稲)》

手下ルシハドンドン 〈アタイクミー ナンダイ スリ〉  
 今年作たる稲や 〈数珠玉〉真珠ぬ如 〈エイスリサーサー スリサーサー スリ〉  
 北風ぬ吹かば 〈真南ぬ蛙〉[蛙] 枕 〈エイスリサーサー スリサーサー スリ〉

手ヲ下ロセバドンドン、先輩ノ兄サン(ハ)ナンダイ(……全体として意不詳)。ソレ  
今年作った稲は〈(大粒で美しく稔って)数珠玉や)真珠のよう。〈エイソレサーサー、ソレサーサー、ソレ〉  
北風が吹いたなら〈(たわなに稔った穂が垂れ下がって)真南の畦を)枕に。

# 05. 《テンヨーテンヨー(テンヨー)》

テンヨーテンヨー シトゥリトゥテン サヨ 〈ハーリヨーハル ヤリクヌシー チェチェ〉  
あさぎ庭ぬ芥 サヨ 誰がすねくなちえが  
〈テンヨーテンヨー シトゥリトゥテン サヨ ハーリヨーハル ヤリクヌシー チェチェ〉  
我達女 童 ぬ サヨ すねく〔すねく〕なちえさ  
〈テンヨーテンヨー シトゥリトゥテン サヨ ハーリヨーハル ヤリクヌシー チェチェ〉

神あさぎの広場の塵は、サヨ、誰が細かくしてあるのか(したのか)?

〈テンヨーテンヨー シトリテン(……三味線の擬音) サヨ、ハーリヨーハル ヤレコノセー。〉  
私達娘が サヨ (踊って足で)細かくしたのよ。

# 06. 《稲摺り摺一り(稲摺り節)》

稲摺り摺一り 粟選り選り 〈粟又選ラリミ 米ヌドウ選ラリル ヤササ ウネササ スーリサーサー〉  
南籾臼なかい 黄金軸立いてい  
〈稲摺り摺一り 粟選り選り 粟又選ラリミ 米ヌドウ選ラリル ヤササ ウネササ スーリサーサー〉  
ちば 気張りよーやー うないぬ達 しちゅま しいち載みしらやー  
〈稲摺り摺一り 粟選り選り 粟又選ラリミ 米ヌドウ選ラリル ヤササ ウネササ スーリサーサー〉

銀の(挽き)臼に黄金の軸を立てて、(量って盛っても余すほどの雪のように白い真米。)

稲ヲ摺レ摺レ 粟ヲ選レ選レ 〈粟ガ選レルカ 米コソガ選レル。ヤササ ソレササ、ソーレ サーサー〉  
頑張れよー、姉妹達、初穂を頭に載させようぞ。 ……かみしらは、喰みしらではなく載みしらとのこと。

# 07. 《一路平洋(一路平安)》

一路平洋 〈海相安全〉嘉例吉 嘉例吉 〈シシーシ イーシ〉  
サー だんぢゅ響 まりる 古嘉津宇ぬ島や 〈一路平洋 海相安全〉嘉例吉 嘉例吉 〈シシーシ イーシ〉  
サー 端々や藍国 中や〔中〕田ぶつく 〈一路平洋 海相安全〉嘉例吉 嘉例吉 〈シシーシ イーシ〉

サー まこと名高き古嘉津宇のムラは、〈一路穏ヤカナ海原、航海安全。嘉例吉(=縁起良シ)、嘉例吉)

サー 周囲は藍の地、中は田んぼ。 ……古嘉津宇は藍で名高い現本町伊豆味の南部の原。旭川の北と接する。

# 08. 《ジントーヨー節(ジントーヨー)》

ジントーヨー 花の都 〈ジントーヨー 花の都〉(里とう二人なりば)ジントーヨー 花の都  
春風ぬ吹かば 手紙送ゆくとうヨ 〈受き取らば里前 ジントーヨー 返事送り ジントーヨー 返事送り〉  
里からぬ手紙 開きりばん芳さヨ 〈芳さある 間に ジントーヨー 返事送ら ジントーヨー 返事送ら〉

本当ヨ 花の都(本当ヨ 花の都)(彼と二人なので(本当ヨ 花の都))

春風が吹いたら手紙を送るから、〈受け取ったなら貴方、本当ヨ 返事を送ってね。本当ヨ 返事を送ってね。〉  
貴方からの手紙を開けるとしたらいい香り。〈香りある間に 本当ヨ 返事を送るわ。本当ヨ 返事を送るわ。〉

# 09. 《吾達心お ひらーてい知り(いちゅび小)》

吾達心お ひらーてい知り 〈スーリ シッ餅 甘生姜〉ウリウリ野ヌ 石 仏 〈何時何時来ヨン チェチェ〉  
サー 影 小ぬあんでいち 自慢すみあば小 〈影 小や 皮どうやっさい 肝持第一どー)



わったーくろー し <スーリ シッ餅 アマショーガ モー イシフトウキ イ チ イ チ チ ョン  
吾達心お ひらーてい知り <スーリ シッ餅 甘 生姜> ウリウリ野ヌ 石 仏 <何時何時来ヨン チェチエ>  
サー あぬあば小 歳や 今幾ちなたが <花ぬ真盛いや 十七八やがやー(十七八やらどー)>  
あんせー 話 ン 出来らさなー <スーリ シッ餅 甘 生姜> ウリウリ野ヌ 石 仏 <何時何時来ヨン チェチエ>

サー 容姿が いい と言って自慢するの かい、姐さん。(容姿は皮(=表面)だけのこと、心持ちが第一だよ。)

僕の心は付き合っ 知って くれ。〈? ? ? 甘生姜〉ホラホラ 野ノ石仏 〈イツイツ来テル。チェチエ〉

……スーリ シッ餅 甘 生姜は 氷(氷砂糖) 柑餅(餅菓子) 甘 生姜の転訛。シッペーは歌詞集ではイッペー。

サー あの娘、歳はもう 幾つ になった かい? 〈花の真つ盛りだ。(数え)十七八かねえ(十七八だろうよ)。〉

だったら話(=会話)もう まくいく ねえ。

## 10. 《サー ヒヤルガヘイ(今帰仁ぬ城)》

サー ヒヤルガヘイ <ササ ヒヤルガヘイ> サー ヒヤルガヘイ <ササ ヒヤルガヘイ>  
今帰仁ぬ城 ヨンサー 霜成ぬ九年母 <サー ヒヤルガヘイ ササ ヒヤルガヘイ>  
志慶真(佐喜真) 乙樽が ヨンサー 貰ちやい佩ちや(佩ちや)い <サー ヒヤルガヘイ ササ ヒヤルガヘイ>  
……佩ちや(佩ちや)い は マタ佩ちやい とも  
今帰仁の城(=北山城)、遅成りの蜜柑。  
志慶真村(現、今帰仁村諸志の元村)の乙樽(王の寵愛を受けた女の名)が首に掛けたり外したり。  
……遅くできた王子を溺愛する様を譬えていう。

## 11. 《スーリ 東》

スーリサーサー <スラエイサ ハイヤ> スーリサーサー <スラエイサ ハイヤ>  
スーリ 東 打ち向かい <スリ 飛ぶる 綾 蝶> スーリサーサー スラエイサ ハイヤ>  
先じゆ待てい綾 蝶 <言遣我ね頼ま スーリサーサー スラエイサ ハイヤ>

ソーレ 東に向かって(ソーレ 飛ぶ美しい蝶。(囃し)) 一寸待て、美しい蝶よ。〈言付けを私は頼もう。(囃し))

## 二揚(一二揚)

12. 《巡リバ巡リバ(だんく 舞)》  
巡リバ巡リバ <今どう巡トティ ヌン巡ユミ 若サル気ヤサ>  
だんく 舞 習ゆんでい 名護東江通ていヨーヒヤー 番所石垣に ちんし切り割てい  
<チ ダンクヨー ダンク スーリ エイスリ>  
だんく 舞 一番や 猫川思だんくヨーヤ 間切腐らする 宇茂佐だんく  
<チ ダンクヨー ダンク スーリ エイスリ>  
いっ達主 女子い <いっ達あんまー 男い> 女子やくとうどう <織たい紡ぢやい 縫うたい着したい>

廻レバ、廻レバ。〈今廻ットイテ、又モ廻ルカ。 若イ気概ダネ。〉

だんこ舞を習おうと名護の東江(集落名)に通ってヨーヤ (名護間切)役場の石垣に膝を切り割って。

〈ト ダンクヨー ダンク。ソーレ エイスレ〉

だんこ舞の一番は(現名護市)勝山の素敵なだんこ。ヨーヤ 村中を腐らせる(のは現名護市)宇茂佐のだんこ。

「君の父さん、女かい。」〈君の母さん、男かい。〉「女だからこそ織つたり紡いだり縫つたり着せたり。」

……着物にする順から考えると、織たいは 續んだい(糸に撚つたり)の転訛か

## 13. 《カマヤシナー》

サ カマヤシナー カマヤシナー <サーラ護シ>  
カマヤシナー かまが裏座や 竈ぬ後 竈ぬ後 暁 起ちれー 灰被てい  
<サーサ 暁 起ちれー>灰被てい カマヤシナー <サー カマヤシナー カマヤシナー>

カマヤシナー いやーとう我<sup>わん</sup>とうや 従兄弟<sup>いちくぬしー</sup>之子<sup>いちくぬしー</sup> 従兄弟<sup>いちくぬしー</sup>之子<sup>いちくぬしー</sup> 従兄弟<sup>いちくぬしー</sup>之子<sup>いちくぬしー</sup>と<sup>みーとう</sup>うん 夫婦<sup>みーとう</sup>なゆみ  
 〈サーサ 従兄弟<sup>いちくぬしー</sup>之子<sup>いちくぬしー</sup>と<sup>みーとう</sup>うん〉夫婦<sup>みーとう</sup>なゆみ カマヤシナー 〈サー カマヤシナー カマヤシナー〉

サ カマヤシナー、カマヤシナー 〈真ッ赤ナ嘘！〉  
 カマヤシナー カマーの裏座敷<sup>かまど</sup>は 竈<sup>かまど</sup>の後ろ、夜明けに起きれば灰をかぶって。  
 〈サーサ 夜明けに起きれば灰をかぶって。カマヤシナー、サー カマヤシナー カマヤシナー〉  
 カマヤシナー お前とおれとはいとこの身、いとこの身。いとこ同士でも夫婦になれるか。

#### 14. 《海ぬちん法螺》

仕度<sup>ウチユ</sup>又<sup>マンナカ</sup>悪<sup>ウチユ</sup>サヤ 側<sup>マンナカ</sup>ナリナリ 〈サー 浮世<sup>ウチユ</sup>又<sup>マンナカ</sup>真中<sup>マンナカ</sup>〉  
 海<sup>うみ</sup>ぬちん法螺<sup>ぼーらー</sup>が 逆<sup>さか</sup>なやい立<sup>た</sup>ていば 足<sup>ひき</sup>ぬ先<sup>さき</sup>々々<sup>さきさき</sup> 危<sup>あぶ</sup>なさや 〈仕度<sup>ウチユ</sup>又<sup>マンナカ</sup>悪<sup>ウチユ</sup>サヤ 側<sup>マンナカ</sup>ナリナリ サー 浮世<sup>ウチユ</sup>又<sup>マンナカ</sup>真中<sup>マンナカ</sup>〉  
 東<sup>あがり</sup> まんまん木<sup>ぎ</sup>ぬめ そよそよなりば 明日<sup>あした</sup>や真南風<sup>まなまふう</sup>なてい 船<sup>ふね</sup>ん来<sup>く</sup>ゆんどー  
 〈酒<sup>サキ</sup>ヤボンボン 茶碗<sup>チャワン</sup>シ飲<sup>ヌ</sup>ミ飲<sup>ヌ</sup>ミ サー マカイシ飲<sup>ヌ</sup>ミ飲<sup>ヌ</sup>ミ〉

海の疣海蛸<sup>イボウミナ</sup>(…細く尖った小さな巻き貝)が逆さになって立てば、足の先が危ないよ。  
 〈支度<sup>ウチユ</sup>ノ悪<sup>マンナカ</sup>ノハ側<sup>マンナカ</sup>ニナレナレ。サー 浮世<sup>ウチユ</sup>ノ真中<sup>マンナカ</sup>〉  
 東<sup>あがり</sup>まんまん木<sup>ぎ</sup>(意不詳)がそよそよ吹くので、明日は南風になって帆船が来るよ。  
 〈酒<sup>サキ</sup>ハタツブンタツブン、湯<sup>ユ</sup>吞<sup>ハ</sup>デ飲<sup>ヌ</sup>メ飲<sup>ヌ</sup>メ。サー 御飯<sup>ゴハン</sup>茶碗<sup>チャワン</sup>デ飲<sup>ヌ</sup>メ飲<sup>ヌ</sup>メ。〉

#### 15A. 《如何ガ仲門 兄 (仲門 兄／仲座 兄)》 ……歌詞集では如何は如何 (以下の歌詞も同様)

如何<sup>チャ</sup>ガ仲門<sup>ナカジョーフィー</sup> 兄<sup>なかにじーひー</sup> 〈由<sup>ユ</sup>ヨー 由<sup>ユ</sup>〉 如何<sup>チャ</sup>ガ仲門<sup>ナカジョーフィー</sup> 兄<sup>なかにじーひー</sup> 〈由<sup>ユ</sup>ヨー 由<sup>ユ</sup>〉  
 仲門<sup>なかにじーひー</sup> 兄<sup>なかにじーひー</sup> や ひーじや生<sup>う</sup>わーさー 女子<sup>チャ</sup>ん小<sup>ナカジョーフィー</sup> や〈かみていうり売<sup>ユシ</sup>いが〉 如何<sup>チャ</sup>ガ仲門<sup>ナカジョーフィー</sup> 兄<sup>なかにじーひー</sup> 〈由<sup>ユ</sup>ヨー 由<sup>ユ</sup>〉  
 売<sup>う</sup>ららんどー あんまー 煎<sup>い</sup>じてい汁<sup>じゅう</sup>飲<sup>ユシ</sup>ま 〈いやーや女子<sup>チャ</sup>ん小<sup>ナカジョーフィー</sup> 餓<sup>い</sup>鬼<sup>ぐわ</sup>らーさぬ〉 如何<sup>チャ</sup>ガ仲門<sup>ナカジョーフィー</sup> 兄<sup>なかにじーひー</sup> 〈由<sup>ユ</sup>ヨー 由<sup>ユ</sup>〉

仲門(屋号)兄さんは山羊の飼育人(調理人)、娘は〈頭に担いでそれを売りに。〉ドウスル、仲門兄サン〈訳ヨー 訳〉  
 娘「売れないよ、母さん。煎じて(山羊)汁にして飲もうよ。」〈母「お前は女のくせに食い意地が張ってるねえ。」〉

#### 15B. 《茶売小》

急<sup>い</sup>ち行<sup>わ</sup>ちはどうやる 〈十二<sup>じゅうに</sup>時<sup>じ</sup>なと一<sup>いち</sup>さ〉 ……この前囃しは歌詞集に記載。現行では省略  
 我<sup>わん</sup>どう汀<sup>てい</sup>良<sup>ら</sup>ん頂<sup>ちやう</sup>ぬ 茶<sup>ちやう</sup>売<sup>う</sup>あぬ 鶴<sup>はつ</sup> どうやいびーしが  
 時<sup>と</sup>遅<sup>ち</sup>くなと一<sup>いち</sup>れー 急<sup>い</sup>ち町<sup>まち</sup>かい〈出<sup>で</sup>てい行<sup>わ</sup>ちはどうやる 十二<sup>じゅうに</sup>時<sup>じ</sup>なと一<sup>いち</sup>さ〉  
 茶<sup>ちやう</sup>ん買<sup>かい</sup>ういみせーら 汀<sup>てい</sup>良<sup>ら</sup>ん頂<sup>ちやう</sup>ぬ〈登<sup>のぼ</sup>ていがじまる木<sup>き</sup> 下<sup>げ</sup>よー ゆし〉

急イデ行カナケリヤ、〈十二時ニナッテルワ！〉  
 茶売り娘 私は汀良町<sup>ていりやまち</sup>のてっぺんのお茶売りの〈チルーと申しますが、〉  
 時間が遅くなったので急いで町に〈出かけなけりや。十二時になってるわ！〉  
 妻(夫に)「お茶も買ってきてくださいね。(お茶は)汀良<sup>ていりや</sup>のてっぺんまで〈上がって榕樹<sup>じやうじゆ</sup>の木の下<sup>した</sup>よ。〉」

#### 16. 《デンスナー》

イーマ デンスナー 〈ヌ ヤリヤリヤリ チ ヤリヤリヤリ〉  
 月<sup>ち</sup>や音<sup>おん</sup>から 変<sup>か</sup>わる事<sup>こと</sup>ねさみ 〈変<sup>か</sup>わてい行<sup>い</sup>く物<sup>もの</sup>や 人<sup>ひと</sup>ぬ心<sup>こころ</sup>〉  
 〈イーマ デンスナー ニ ヤリヤリヤリ チ ヤリヤリヤリ〉  
 今<sup>いま</sup>降<sup>ふ</sup>ゆる雨<sup>あめ</sup>や 世<sup>よ</sup>果<sup>が</sup>報<sup>ほう</sup>雨<sup>あめ</sup>やしが 〈我<sup>わ</sup>達<sup>だ</sup>生<sup>せい</sup>まり島<sup>しま</sup>ん 降<sup>ふ</sup>いがさびら〉  
 〈イーマ デンスナー ニ ヤリヤリヤリ チ ヤリヤリヤリ〉

月は昔から変わることはないのだ。〈変わっていくものは人の心。〉  
 今降っている雨は豊作をもたらす雨だが、〈私の故郷のムラにも降っているでしょうか。〉

17. 《谷茶前》

ナンチャ マシマシ(ムサムサ) 〈ディ姐 小 約束 イサ添イ添イ添イ〉  
 谷茶前ぬ浜にヨー する小が寄て来よんでいさなー ヘイ 〈する小が寄て来よんでいさなー ヘイ〉  
 〈ナンチャ マシマシ(ムサムサ) ディ姐 小 約束 イサ添イ添イ添イ〉  
 する小やあらぬヨー 大和[大和]みじゅんでいさなー ヘイ 〈大和[大和]みじゅんでいさなー ヘイ〉  
 〈ナンチャ マシマシ(ムサムサ) ディ姐 小 約束 イサ添イ添イ添イ〉

「谷茶村(現恩納村谷茶)の前の浜にヨー、きびなごが寄って来ているってよー。オイ。」〈「(繰り返し)」〉  
 〈ナルホド マシマシ(ムサムサ)、サア姐サン約束(ダヨ)、サア緒二、一緒二。〉  
 「きびなごじゃないヨー。大和鰯だってよー。オイ。」

本調子

18. 《カイシャヌヨー(新湊節)》 …… 《湊おま(新村ゆんた)》を編曲し、星克(1905-77)が作詞したもの

マタ カイシャヌヨー シューラヨー 〈マタ 出 シバヨー シューラヨー〉 ……歌詞集ではこれを繰り返す  
 君は船かよ 私や港 一夜泊めては 鱸網解くヨ  
 〈マタ カイシャヌヨー シューラヨー マタ 出 シバヨー シューラヨー〉  
 三筋の鱸網 出船に解いて 一筋心を土産に上げるヨ 〈マタ カイシャヌヨー シューラヨー (以下同)〉  
 たった一夜の つれない情 鳴くな千鳥よ 名残が尽きぬヨ 〈マタ カイシャヌヨー シューラヨー (以下同)〉

マタ 美シイネエ、可愛イヨ。マタ 出セバヨー(ンダショーリヨの転訛)、可愛イヨ。)

19. 《ピーラルラー(二合小ノサブエン)

ピーラルラーラー ラーラルラーラー 〈二合ドーヤー二合 ナー升五合 チェチェ〉  
 此まぬはんし前や 御肝ゆたさぬ 何合がうたびみせーら 〈愛々とう〉 〈サブエン サブエン サー サブエン〉  
 〈ピーラルラーラー ラーラルラーラー 二合ドーヤー二合 ナー升五合 チェチェ〉  
 此まうてい飲まんでいしは 熱さぬ飲まりらん 早くうたびみそーり 〈かみてい巡やびら〉  
 〈サブエン サブエン サー サブエン〉  
 〈ピーラルラーラー ラーラルラーラー 二合ドーヤー二合 ナー升五合 チェチェ〉

ここのお婆様はお心が宜しい。(酒を)何合下しますか。〈睦まじく。〉 〈サブエンサブエン サーサブエン〉  
 〈ピーラルラーラー ラーラルラーラー(哨唸の擬音)〉 二合ダヨネ、二合。更ニ一升五合！)  
 ここで飲もうと言っても暑くて(熱くて)飲めない。(酒を)早く下させ、〈頂戴して廻りましょう。〉

20. 《唐船どーい》

サー 唐船どーいさんてーまー 一散走えーならんしや ハラ ユーイガネー 若狭  
 〈サー 此ヌユーイガネー 若狭町村ぬサ 瀬名波ぬたん前〉 〈ハイヤ センスル ユイヤネ イヤササーサーサ〉  
 サー 待ち兼にて居たる 七月んなたれー ハラ ユーイガネー やがてい  
 〈サー 此ヌユーイガネー やがてい八月ぬサ 踊い遊ば〉 〈ハイヤ センスル ユイヤネ イヤササーサーサ〉  
 サー 真玉橋下りてい とんとんみ小捕やい ハラ ユーイガネー 眠い  
 〈サー 此ヌユーイガネー 眠い)するんぞにサ 煎じてい上ぎら 〈ハイヤ センスル ユイヤネ イヤササーサーサ〉

サー 中国船だぞー、と言っても一目散に走らないのは、ハラ ユーイガネー 〈サー コノユーイヤネー〉  
 〈(那覇)若狭)町の瀬名波(屋号)のお爺さん。〈ハイヤ センスル ユイヤネ、イヤーサーサーサ〉  
 サー 待ちかねていた盆になったからには、〈まもなく来る〉八月にも踊り歌い楽しもう。  
 サー (那覇の)真玉橋から下りて跳び沙魚を獲って、眠っている彼女に煎じて(食べさせて)あげよう。



01.《スリスリ目出度イ(目出度イ節)》

♩=80-86 ♪は♩に近い

スリスリ メデタイ<カリユシ メデタイ>スリスリ メデタイ<カリユシ メデタイ>

1. ベーく がなしぬ するめ やー ぬ ちぬ うーやー が なー し  
2. た から ーがーぬ なーか にー ーく がにー だまー ん ちー てい

くぬ ゆ か ら あー ぬ ゆー サンサー うにげー さ びー ら  
くぬ ゆ か ら あー ぬ ゆー サンサー ーちぢにー か みー ら

1.2. メデ タ イー メ デ ターー イ スリスリ メデタイ カリユシ メデタイ

02.《エイサー節(念仏)》

♩=86-90 ♪は♩に近い

エイサ エイサ ーくサ エイサー ヒヤルガ エイサ ースリ サ サ チェチェ

1. し ちー ぐわ ちー た なー ば たー な ぬー かぬー ーとうー か に  
2. い ちー ち ぬー ーとう しー にー やー ーふあ ーうやー ーむー ーどう てい

1.2< エイサ エイサ ー サ エイサー ヒヤルガ エイサ ースリ サ サ チェチェ >

03.《久高万寿主》

♩=42-44

スリサ サ <エイスリサ サ スリ> 1. く だーか まんーじゆー ばー やー  
2. ちん くしれ うふあやぢん ちち

ちゆらゆー ーペー ーかめていぢゆん どー ーくヨー た まー ーく が ーに<  
さばくませー なぎなたさばくでい ーくヨー じん ぶぬー ーく が ーら>

1.2. クユイヌハナシヌ ク ムツ サ<スリサ サ エイスリサ サ スリ> ハイ  
★2. ちんくし と重なる。

04.《手下ルシハドンドン(作たる稲)》

♩=43-46

ティ ウルシワ ドン ドン <ア タ イ ク ミ ナン タイ スリ>

1. く とう し ち く た る めー やー くしー し だ ま し  
に し か じ ぬ ふー かー ーば <まふえぬ あ ぶ し>

まだまぬぐ とう <エイスリサ サー スリサ サ スリ>  
あぶしまくら <エイスリサ サー スリサ サ スリ>

05.《テンヨーテンヨー》

♩=84-88 ♪は♩に近い

テンヨー テンヨ シトウリトウ テンサヨ <ハーリ ョーハル ヤリクヌ シーチェエ>

1. あさぎ ーま ぬー あ く たーサヨ ーたがす ねーくー なーちえ がー  
わした ーみ やー ら び ぬーサヨ ーすねく ーすねく なーちえ さー

< テンヨー テンヨ シトウリトウ テンサヨ ハーリ ョーハル ヤリクヌ シーチェエ >

06.《稲摺り摺一り(稲摺り節)》

♩=88-94 ♪は♩に近い

<イニシリ シリー アウユリ ユーリ <アワヌ ユラリミ クミヌドウ ユラリル  
ヤササ ウネササ スーリ サ サ> 1. なんぢや うーす なーか いー  
2. ちばり よーや うないぬ ちゃー

く が ー にー ーじ く たーていー てい <イニシリ シリー アウユリ ユーリ  
し ちゆー まー し ち かみしら や <イニシリ シリー アウユリ ユーリ

1.2< アワヌ ユラリミ クミヌドウ ユラリル ヤササ ウネササ スーリ サ サ >

## 07.《一路平洋(一路平安)》

♩=84-88 ♪は♩に近い

イ チ ロ ヘ イ ヨ ケ イ ソ アンゼン)カリユシ カリユシ<(シ)シ シ イ シ>

1. サ ーだんじゅ ーとうゆ ーまー り る ーふるが ーちゆぬ ーしー ま や  
サ ーはたば ーたや ーえー ぐ に ーなかや ーなか ーたー ぶ く

<イ チ ロ ヘ イ ヨ ケ イ ソ アンゼン)カリユシ カリユシ<(シ)シ シ イ シ>

## 08.《ジントーヨ一節》

♩=56-60

ジントヨ はなのー みやこ <ジントヨ はなのー みやこ> 1. はるか じ んふ  
2. さとうから んてい

かーば ていがみ うくゆ くとうヨ <うきとう ーら ば さ とうー め  
ーみ あきり ばんか ばさヨ <かばさ ーあ る え だー に

ジントヨ へんじー うくい ジントヨ へんじー うくい <  
ジントヨ へんじー うくら ジントヨ へんじー うくら >

## 12.《巡りば巡りば(だんく舞)》

♩=84 ♪は♩に近い

めぐりば めぐりば <なまどう みぐとてい ーまたん みぐゆみ わかसर ちーやさ> 1. だんく  
2. だんく

ーもいー ならゆん でい なぐあー が り ーかゆてい ヨーヒヤ ーばんじゅー い し  
ーもいー いちばん や まやーが う み ーだんく ヨーヒヤ ーまちり ーく さ

がーち に ちんし ちりわてい <チダンク ヨ ダンき ース リ エイスリ>  
ーす る うんさ ーだんく <チダンク ヨ ダンク ース リ エイスリ> いったすー

2. いなぐい <いったあんま いきがい> いなぐ やくとうどう <うたい ちんぢい の たい ち きたい>

## 09.《吾達心おひらーてい知り》

♩=84-90

わつ たー くろ ひら てい しり <スーリ シーッベ アマショー ガ>

1.2. ウリウリ モー ス イシフトウ キ <イチイチ チョンチエ>

1. サ ーかーぎ ーぐわぬ ーあーん でい ち ーじまん ーすみ ーあー  
2. サ ーあぬあ ーばぐわ ーとうー し や ーなまい ーくち ーなー

ばぐわ <か ぎ ぐわ や ーかわどう やつ さい ーちむち でーいち ど>  
た が <は な ん ー まさか い やー ーじゆし はちやが やど>

わつ たー くろー ひら てい しり <スーリ シーッベ アマショー ガ>  
あん せー はなん ー ていきら さ なー <スーリ シーッベ アマショー ガ>

1.2. ウリウリ モー ス イシフトウ キ <イチイチ チョンチエ>

## 10.《サー ヒヤルガヘイ(今帰仁ぬ城)》

♩=84-88

サ ヒヤルガ ヘイ<ササ ヒヤルガ ヘイ> 1. なちじ ん ぬ ーぐしく ヨンサ  
しちま う とう ーだるが ヨンサ

ーしむな い ぬ ーく ーに ぶくサ ヒヤルガ ヘイササ ヒヤルガ ヘイ  
ーぬちあい ーはちや ーは ーちや いくサ ヒヤルガ ヘイササ ヒヤルガ ヘイ

## 11.《スーリ東》

♩=68-78

ス リ サ サー<スラエサ ハイヤ> 1. スーリー あがりー う ーち ーむ ーかてい  
まじゆー ーまていー あ ーや ーは ーべる

<スリ とう ー ぶ る ーあや はーペー ーる ス リ サ サー スラエサ ハイヤ>  
<いー え ー い ー わんね たーぬー ーま ス リ サ サー スラエサ ハイヤ>

### 13.《カマヤシナー》

♩=88-90 ♪は♩に近い

サ カマヤシ ナ ーカマ ヤ シ ナー 〈サーラ ユ ク シー〉

1. カマヤシ ナ ーかまが うらざや かまぬく し ー かまぬく しー  
2. カマヤシ ナ ーいやーとう わんとうや いちくぬし ー いちくぬしー

あかちち うちれー へーかん ていー ー(サーサ あかちち うちれー) へー  
いちくぬ しーとうん みとうなゆ ーみ ー(サーサ いちくぬ しーとうん) みーとう

ーか かん ーてい ーカマ ヤ シ ナー(サ カマヤシ ナ ーカマ ヤ シ ナー)  
ーな ゆ ーみ ーカマ ヤ シ ナー(サ カマヤシ ナ ーカマ ヤ シ ナー)

### 14.《海ぬちん法螺》

♩=88-92 ♪は♩に近い

シ タ クヌ ワツ サヤ スバナリ ナーリ 〈サ ー ウチユヌ マンナカ〉

1. う み ぬ ちん ぼ ら ー が ー さ か な や い ー た ー  
2. あ が り まん まん ぎ ー ぬ ー そ よ そ ー よ ー な ー

てい ば ー ひ さ ぬ さ ち ざ ち ー あ ぶ な さ や ー  
り ば ー あ ちや ま ふ え な てい ー ふ に ぬ ちん ど ー

〈<sup>2</sup>タ クヌ ワツ サヤ スバナリ ナーリー サ ー ウチユヌ マンナカ〉  
〈<sup>1</sup>サ キヤ ボン ボン チャワンシ ヌミヌミ サ ー マカイシ ヌミヌミ〉

### 15.《如何ガ仲門兄》～《茶売小》

♩=88-92 ♪は♩に近い

チャ ガ ナカジョ ヒ 〈ユシヨ ユシ〉 なかじよ ひ やー ーひ じゃうわ さ

いながん ぐわーや ー(かみていうりうい が)

チャ ガ ナカジョ ヒ 〈ユシヨ ユシ〉 うら ら ん どー あ ー ん ま

しじてい しるぬま ー(いやー や いながん ぐわぬ がちら さぬ)

いすぢ いちわどう やるく(じゅうにじ なんとーさ) 1. わんどう て らん ーち ー ぢぬ  
とうちう し く ー な ー と れ

<sup>2</sup>ちゃーう やーぬー ー(ちるどう やいびー しが  
いすぢ まちかい ー(んちてい いちわどう やる じゅうにじ なんとーさ) 2. ちゃん こ いー

ーみ ー せ ら て らん ちーぢ ー(ぬぶてい がちまる ぎ ひちやよ ユシ)

### 16.《デンスナー》

♩=70-78 ♪は♩に近い

イ ー マ ーデンス ナ 〈ヌ ヤリヤリ ヤリ チ ヤリヤリ ヤリ〉

1. ち ち や ーむかし か ら ー か ー わ る ー(とうね さ み  
2. な ま ふ ーゆるあ み やー ー ゆー が ふ ーあみや し が

〈か わ てい ーい くむ ぬ やー ー ひ とうぬ ーく ーく ーる  
くわ が ん ーまりじ ま ー ー ん ふ いが ーさ ーび ーら

1.2 イ ー マ ーデンス ナ ヌ ヤリヤリ ヤリ チ ヤリヤリ ヤリ)

# 17.《谷茶前》

♩=84-88 ♪は♩に近い

ナンチャ マシ マシ - ディアングワ ヤク シク イサ ソイ ソイ ソイ )

たんちゃ - めぬ - はまに - ヨ - する - る - ぐわ - が ゆていちゃん  
 する - ぐわや - あらぬ - ヨ - やま - とう - やまとう - みじゆん

でいさな - ヘイ くする - る - ぐわ - が ゆていちゃん でいさな - ヘイ  
 でいさな - ヘイ くやま - とう - やまとう - みじゆん でいさな - ヘイ

- ナンチャ マシ マシ - ディアングワ ヤク シク イサ ソイ ソイ ソイ )

# 18.《カイシャヌヨー (新湊節)》

♩=84-86 ♪は♩に近い

マ タ カイシャヌヨ - シュー-ラヨ (マ タ ンチャシバヨ - シュー-ラヨ )

1. き - み は - ふ ね か - よ - わ - た しや - み なとう  
 2. み すじ の - と もづ - な - で ふ ね に - と いて  
 3. た 一 つ た - ひ と よ - の - つ れ な い - な さけ

ひ - と - よ - と - め て は - と もづ な - ほ - ど く ヨ  
 ひ な - と す - じ - こ - を - み - や げ に - あ - げ る ヨ  
 - く - な - ち - こ り よ - な - ご り が - つ - き め ヨ

-3. (マ タ カイシャヌヨ - シュー-ラヨ マ タ ンチャシバヨ - シュー-ラヨ )

# 19.《ピーラルラー(二合小)》

♩=88-92 ♪は♩に近い

ピラル ラ - ラ ラル ラーラー (ニンゴドヤ ニンゴ - ナイツ ゴン ゴー チェチエ)

1. く ま ぬ - はんし め や - ち む ぬ - ゆ - た さ ぬ - なん ご が -  
 2. く ま う てい ぬ まん でい し ば あち さ ぬ - ぬ まり ら ん - へ - く -

うたびみ せ ら - (か - な - が - な - とう - サブエン サブエン サ サブ エン  
 うたびみ そ り - (か み てい み ぐ や び - ら - サブエン サブエン サ サブ エン

1.2. ピラル ラ - ラ ラル ラーラー ニンゴドヤ ニンゴ - ナイツ ゴン ゴー チェチエ)

# 20.《唐船どーい》

♩=94-100

1. サ - と - しん - どい - さん て ま - いっ さん は - え な ら ん し  
 2. サ - ま ち か に - てい - う - た る - し ち ぐわ ち - ん - な - た  
 3. サ - ま だ ん ば - し - う - り てい - とん とん み - ぐわ - とう - や

や - ハラ ユ - イ ガ - ネ - わ か さ く サ ク ヌ ユ - イ ガ - ネ - わ か さ )  
 れ - ハラ ユ - イ ガ - ネ - や が てい く サ ク ヌ ユ - イ ガ - ネ - や が てい  
 い - ハラ ユ - イ ガ - ネ - に ぶ い く サ ク ヌ ユ - イ ガ - ネ - に ぶ い )

ま ち - - む ら - ぬ - サ す な は ぬ - た - - ん - - め  
 は ち - - ぐわ ち - ぬ - サ う どう - い - あ - - し - - ば  
 す る - - ん ぞ - - に - サ し じ - てい - あ - - ぎ - - ば

1-3. ( ハイヤ センスル - ユイヤ ナ イヤササ - サ サ )

♪は♩に近い